

オープン市場短信 (2015年7月)

2015.7.8

◆ 6月のCP市場動向

6月のCP（短期社債）月末残高は15兆6307億円と、11か月連続前年同月比増となった。前月比では、四半期末決算の有利負債圧縮を行う企業の動きもあって、約3127億円の減少となった。一般事法では4826億円、金融機関で1615億円の減少となった。一方、その他金融では2464億円、ABC Pが851億円の増加となった。金融機関では証券会社の減少が大きく、その他金融では情報・通信系ファイナンス会社の増加が目立っていた。

発行レートの動きについては、6月末償還の発行や発行頻度の高い銘柄では上昇地合いとなったが、1M以上のタームではほぼ横這い圏内での出合いであった。最上位格付け銘柄では0.075%台～0.089%近辺、a-1格の一般事業法人では0.08%台半ばから0.09%台での出合いが中心となった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0.087%～0.089% 一般事業法人（a-1格）0.845%～0.1095%
その他金融銘柄（a-1格）0.081%～0.160%

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	6月末残高	5月末残高	増 減
一般事法	35,571	40,397	-4,826
その他金融	65,980	63,516	2,464
金融機関	38,427	40,042	-1,615
政府系金融	1,200	200	1,000
銀行等	14,870	15,179	-309
証券	22,357	24,663	-2,306
ABC P	16,329	15,478	851
計	156,307	159,433	-3,126

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

6月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1か月	2か月	3か月
a-1+(一般事法)	0.0750% ~ 0.0849%	0.0820% ~ 0.0840%	0.0870% ~ 0.0890%
a-1(一般事法)	0.0850% ~ 0.1050%	0.0850% ~ 0.0940%	0.0845% ~ 0.1095%
a-1+(リース銘柄)	0.0860% ~ 0.0890%	0.0845% ~ 0.0890%	0.0860% ~ 0.0895%
a-1(リース銘柄)	0.0980% ~ 0.1060%	0.0919% ~ 0.1200%	0.0810% ~ 0.1600%
a-2	0.1000% ~ ケ0.25%	0.1000% ~ ケ0.25%	0.1030% ~ ケ0.25%

《CPオペ》

CP買入オペは、4日・16日が各々3500億円、25日は月末オペ残高の調整から4000億円にてオファーされた。4日のオペでは、5月末近辺の発行増が影響し応札額が約9500億円と増加したことから、按分レートが上昇した。16日のオペでは、応札可能銘柄が多かったことや6月末償還玉の売却希望が強かったためか、按分・平均レート共に上昇した。25日のオペでは、オファー額の増加に対し応札可能銘柄が減少したこともあり、按分・平均レート共に低下した。

【月末オペ残高：1兆9541億円】

日銀CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
6月4日	6月9日	3,500	9,537	3,498	0.085%	0.091%	41.4%
6月16日	6月19日	3,500	9,308	3,495	0.087%	0.093%	40.8%
6月25日	6月30日	4,000	7,923	3,985	0.080%	0.084%	32.5%

《ABCP》

ABCPの月末残は、1兆6329億円（前月比851億円増）となったが、前年同月比では1439億円の減少であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、6月末時点における発行登録企業数は変わらず500社。通算の発行企業数は、ヤンマーホールディングスと三菱UFJ証券ホールディングスが初発行を行い、542社となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、レポレートの高止まりの影響もあって、先月よりも上

昇し0.07%台から0.09%近辺での出会いとなった。

◆ 7月のCP市場動向

7月のCP償還額は約2兆8400億円で、前年同月の償還額（約2兆3800億円）を上回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC）。

今月の発行動向は、鉄鋼・卸売業等の復活発行が行われることから発行増が見込まれ、月末発行残は16兆円台前半を予想する。

発行レートについては、最上位銘柄は0.07%台前半から0.08%台後半での出会いを予想する。一般銘柄では0.08%台半ば～0.09%台で、発行量の多い銘柄では0.09%台半ばから0.10%台後半での出会いを予想する。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）では、0.09%前後～0.15%近辺を予想する。

1日に、日銀短観「CPの発行環境判断DI（全産業）〈発行企業ベース〉」が公表され、DI（“楽である” - “厳しい”）は大企業で31%ポイント（3月調査比プラス3%ポイント）という結果となった。

《CPオペ》

今月は、7日（実施済）・16日・28日と、計3回の入札が何れもオファー額4000億円にて予定されている（6月は、4日・16日が各々3500億円、25日は4000億円）。7日のオペは、応札可能銘柄が多かったためか、応札額は4月7日のオペ以来の1兆1000億円強となり、按分・落札レート共に前回レートを上回る結果となった。次回以降は、発行レートと応札可能銘柄にもよるが、足元現先レートの低下もあり、横這いから若干低下地合いを予想する。

《CP現先市場》

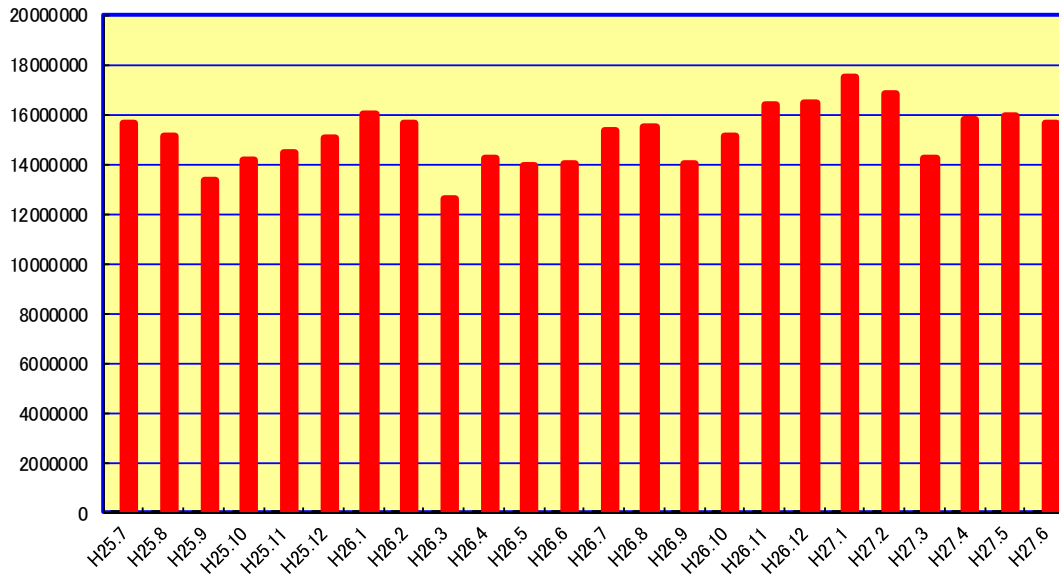
S/N物のレポレートは先月より低下し、0.01%～0.06%前後での出会いが予想される。インターバンクレートは変わらず、0.065%～0.075%近辺での動きを予想する。CP現先レートは、レポレート低下の影響もあって現在0.06%台～0.08%近辺での出会いとなっている。月中旬以降発行増が予想されるものの、運用ニーズも強く横這いから低下地合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高 (25年7月～27年6月)

発行登録企業：500社（発行実績あり542社）

（過去2年間の残高を表示）



6月末発行残高ベスト20

6月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	6月末残高	5月末残高
1	三菱UFJリース	838,600	814,100
2	三井住友ファイナンス&リース	807,200	804,200
3	三菱UFJモルガンスタンレー証券	744,200	767,800
4	東京センチュリーリース	624,500	627,600
5	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	520,600	545,170
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	SMBC日興証券	480,300	606,700
8	JXホールディングス	464,000	425,000
9	大和証券	445,380	469,880
10	みずほ証券	414,400	449,200
11	NTTファイナンス	396,000	230,000
12	芙蓉総合リース	350,200	345,200
13	JA三井リース	342,000	340,000
14	興銀リース	336,000	339,300
15	三井住友信託銀行	317,400	354,400
16	スタンダードチャータード銀行	309,500	309,500
17	日本証券金融	301,000	324,000
18	エイペックス・ファンディング	294,460	282,610
19	ホンダファイナンス	240,000	230,000
20	ジャックス	228,500	214,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会